

観光振興対策特別委員長報告

観光振興対策特別委員会における、これまでの調査並びに審査の経過についてご報告申し上げます。

昨年五月の委員会設置以来、ポスト一三〇〇年祭の観光振興に関することについて、県内の実情を含め、各般にわたり調査並びに審査を行ってまいりました。

まず、六月定例会においては、観光振興にかかわる交通環境整備がおくれていることや土産物の開発が観光振興の課題の一つであるとの指摘をされるとともに、記紀・万葉プロジェクトやパーク・アンド・バスライドについての質疑が行われたほか、奈良公園は文化財、寺社、仏閣、歴史的景観などを観光資源として発展してきたことから、歴史にあふれるたたずまいを生かすことが大切であるとともに、地元にある神社などの文化財を守っていこうとする視点からの観光のまちづくりに取り組まれないとの要望がありました。

次に、八月四日には県内調査として、新たな観光の拠点施設となる東大寺総合文化センターの整備状況や、奈良への誘客力の高い奈良国立博物館の現状等を調査し、さらに、石上神宮では、記紀・万葉や、韓国ゆかりの所蔵品についての調査を行ったところであります。

次に、九月定例会においては、紀伊半島大水害による県内の観光地の風評被害をなくすために、被災地の状況をわかりやすく伝えることと指摘をされるとともに、記紀・万葉プロジェクトにおいて、気運を盛り上げるため、更に情報発信するとともに、伝承地等の観光環境整

備に努められたいこと。また、奈良の玄関口として近鉄奈良駅前を整備されたいとの要望がありました。

次に、十一月定例会においては、奈良県の歴史と文化の視点からの友好提携による国際交流を観光という形で促進されたいこと。また、修学旅行生に奈良公園の思い出づくりができるよう、バスの駐車について検討されたいとの要望がありました。

一般財団法人奈良県ビクターズビューローの専務理事を招き奈良観光の特性と課題等についての意見聴取を行いました。

宿泊者の四割以上が関東地区からの来訪者であり、修学旅行生は平均一泊、滞在時間は四時間程度や、子育て後の夫婦、友達同士など大人、若しくは熟年者の人気度が高いなどの特性があること。

今後、奈良公園を中心とした世界遺産を含めたコンベンションの誘致など文化遺産や奈良のすばらしい自然のさらなる活用や、「食」の魅力が少ないイメージがある中で、ミシュランガイド、クーカル、伝統ある奈良の野菜などの新たな素材に期待ができること。

なお、大規模宿泊施設が少ないことや散在する観光地を効率的になぐ二次交通について課題があるとのご意見をいただいたところです。

次に、二月定例会においては、提出予定議案として来年度当初予算案の説明を受け、さらに、記紀・万葉プロジェクト事業を推進する人材の育成や市町村との連携による環境づくりなどの滞在型周遊観光の環境整備の問題点についてのほか、奈良公園基本戦略において、基本方針の実現に向けた施策・事業についての質疑が行われ、今後の奈良公園の整備において、周辺施設の立地や奈良特有の自然や文化財の価

値を踏まえて取り組まれないこと。観光客を受け入れるマンパワーとなる県民への奈良観光についての啓発に取り組まれないこと。また、奈良マラソンを通じた観光振興について要望されるなど、各般にわたり活発な議論が交わされました。

以上のような経緯を踏まえ、以下、五点について、さらに要望するものであります。

一 観光立県として滞在型周遊観光を目指し、宿泊施設の充実や散在する観光地を効率的につなぐ交通アクセスの整備に努められたいこと。

一 奈良公園周辺の整備において、奈良公園のもつ自然資源、歴史・文化資源、公園資源のもつ価値を踏まえた利活用を検討されたいこと。

一 記紀・万葉プロジェクト事業にかかわる伝承あるいは史跡の情報を発信するとともに、ハード整備を含む観光環境の整備に努められたいこと。

一 中国や韓国といった東アジアとの友好関係を築く上で、互いの文化による交流は大切な要素であるので、歴史と文化による友好交流を観光の視点で促進されたいこと。

一 観光地の状況を的確にわかりやすく情報提供するとともに、奈良マラソンなどのテレビ放映を活用して、奈良の風景等の紹介ができるよう検討されたいこと。

なお、今後も、ポスト一三〇〇年祭の観光振興として、古事記完成一三〇〇年にあたり、「記紀・万葉プロジェクト」の取り組みが始まる

ことから、奈良ならではの観光振興や、「巡る奈良」による滞在型周遊観光の促進、並びに通年型観光について、引き続き慎重に審議を行つてまいりたいと考えております。

以上、申し上げて中間報告といたします。